

情報学研究科  
履修要項

2026

令和8年度

 近畿大学

## 情報学研究科 履修要項

### 目次

I. 教育方針	
1. 近畿大学の「建学の精神」と「教育の目的」	2
2. 情報学研究科の教育方針	2
3. 履修系統図（カリキュラムツリー・マップ）	5
II. 学修に関する学生生活	
1. 学生生活における連絡・情報	6
2. 1年間の流れ	6
3. 学期および授業時間	6
4. 休講と補講	7
5. 気象警報及び台風・地震等による交通機関の運行停止に伴う授業の取り扱い	7
6. 学修上の相談	7
III. 研究指導スケジュール	
1. 研究指導スケジュール	8
2. 修士論文提出条件	9
IV. 修了要件・科目表	
1. 修了要件	9
2. 科目表	10
V. 学籍と事務手続き	
1. 学籍番号	11
2. 各種変更の届出	11
3. 退学・再入学	11
4. 休学・復学	11
5. 除籍・復籍・処分	11
6. 定期健康診断	12
7. 欠席届	12
VI. 科目の履修と単位の修得	
1. 単位	14
2. 科目の履修	14
3. 授業形態について	15
4. レポート	15
5. 授業への出席	15
6. 成績	16
VII. 大学院「教育プログラム」における他研究科等の履修および単位認定	16
VIII. 主な施設紹介	17

## I. 教育方針

### 1. 近畿大学の「建学の精神」と「教育の目的」

近畿大学は、「実学教育と人格の陶冶」を建学の精神とし、「人に愛される人、信頼される人、尊敬される人の育成」を教育の目的として掲げています。この建学の精神と教育の目的に基づいて、「広い教養に裏打ちされた人格とチャレンジ精神をもって未来を志向しつつ、実践的学問すなわち実学の発展に貢献することのできる人材を育成」して、社会に送り出すことに全力で取り組んでいます。

本学の各学部・大学院及び各学校は、それぞれの人材育成目標に沿って、特色あるカリキュラムを用意し、充実した教授陣が、質の高い教育を提供しています。学生の皆さんには、上記の建学の精神と教育の目的を理解していただき、本学園で、本当に優れた友人・先輩・教員や夢中になれる学問に出会い、美しいものに打たれ、豊かな教養と専門的知識を身につけ、各人固有の才能を見出し、自分に最もふさわしい将来設計をされることを願っています。

近畿大学大学院学則

<https://www.kindai.ac.jp/files/about-kindai/overview/regulations/gakusoku/graduate.pdf>

### 2. 情報学研究科の教育方針

#### 【養成する人材像】

情報学研究科では、国が掲げる「サイバー空間とフィジカル空間を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会」を実現するために、高度で広範な専門知識と倫理観に基づき、自ら考え行動することで、新たな知見や価値を生み出すことができる技術者や研究者である「超スマート社会でイノベーションを起こす知のプロフェッショナル」を養成します。知のプロフェッショナルとは主には高度の専門的職業人を指すが、新たな知見や価値を生み出す研究者も含まれます。

#### 【教育研究上の目的】

養成する人材像の項目で述べた人材を養成するために、幅広い課題に対処できる高い情報収集・分析能力、課題に対する問題解決能力、専門知識に基づいて自らの思考を説明し妥当性を議論できる論理的かつ批判的思考力、グローバルな情報発信能力を修得させることが本研究科の研究教育上の目的です。

基礎となる情報学部では、情報学分野において特に秀でた能力や経験を有する者を受け入れる総合型選抜、KDIX.global（学部独自の留学プログラム）、KDIX.Lab（学生の自主的な発想を支援するプロジェクト）等、学生の多彩な才能を引き出すための独自の取り組みを行っています。このような経験を経て高いレベルでの技術力・国際性・自律性を持った学生を受け入れ、学部における「知能システム」、「サイバーセキュリティ」、「実世界コンピューティング」の各コースにおいて学修した専門知識や技能をより深化させます。さらに、自らの専門とは異なる分野の基礎知識を学ぶ機会を設け、専門分野にとらわれず、幅広い技術分野に対する知見を得

られるようにします。また、担当教員が個別に指導する研究活動のみならず、企業等も参画した社会情報学実習への参加を通じて、問題解決力、批判的思考力、創造的思考力、倫理的行動力も涵養されることを目指します。

続けて、本研究科の3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）を説明します。

#### 【ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）】

情報学研究科情報学専攻では、国が掲げる「サイバー空間とフィジカル空間を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会」を実現するために、高度で広範な専門知識と倫理観に基づき、自ら考え行動することで、新たな知見や価値を生み出すことができる技術者や研究者を養成します。この目的を達成するために、情報学研究科が定めた学位取得までに修得しておくべき学修成果の要件は、以下の通りです。

#### 1（知識・技能）

1-1. 幅広い課題に対処するための高い情報収集・分析能力を有する。

#### 2（思考・判断・表現）

2-1. 各自が設定した課題の解決を図るためのシステム構築や実験を行い、問題解決の程度を分析、評価できる。

2-2. 各自の研究課題に関する国際的な研究動向を分析し、その成果を国内外の学会など公的場面で発表できる。

2-3. 専門知識に基づいて自らの思考を説明し、論理的かつ批判的思考をもって妥当性を議論できる。

#### 3（主体性・意欲・態度）

3-1. 各自の研究課題について、主体的に問題解決を図る態度を身につけている。

以上の要件を確認するために、所定の単位を修得し、修士論文を提出し、論文内容に関する指導教員を含めた複数の教員によって公聴会を行い、審査に合格した学生に修士（工学）の学位が授与されます。

#### 【カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）】

情報学研究科情報学専攻は、情報学部における教育を基盤とし、専門知識・技能を体系的に学べる教育プログラムを提供しています。科目群として基礎科目、専門科目、特別研究が設定されています。なお、ディプロマ・ポリシーに学修成果として定めた資質・能力と、カリキュラムとの関連は、カリキュラムマップで示しています。また、学修成果の達成度は、各授業科目はシラバスに掲げる評価方法により評価し、修了時の学修成果は別に定める方法によって評価を行います。

## 基礎科目群

「知能システム概論」「サイバーセキュリティ概論」「実世界コンピューティング概論」のうちこれまでに学生が学修してきた領域とは異なる学問領域の概論を2つ以上履修し、幅広い課題に対処できる基礎力を身につけ、ディプロマ・ポリシー1-1で定める能力の修得を目指します。また、「情報技術英語1」「情報技術英語2」では技術者・研究者としてのグローバルなコミュニケーション能力を養成して国際社会における発信能力を高め、ディプロマ・ポリシー2-2で定める能力の修得を目指します。「社会情報学応用実習1」「社会情報学応用実習2」では社会における実課題の解決に取り組んで実践的な問題解決能力を培い、ディプロマ・ポリシー2-1で定める能力の修得を目指します。

## 専門科目群

専門科目群では論理的説明、批判的思考力を養うための分野ごとの国内外の最新情報を提供し、学生が自ら情報収集・分析する能力を養成します。学部で学んだ内容をより深く理解し、研究を進めていく上での学力を高め、問題解決能力を培います。これらによって、ディプロマ・ポリシー1-1、2-1、2-2、2-3に定める能力の修得を目指します。

## 特別研究

担当教員の指導のもとで各自の研究課題に取り組む機会と環境を与え、情報収集・分析能力と問題解決能力を育成します。国内外の学会などでの発表や議論、外部の研究者・研究機関との交流を通じ、論理的な説明力と批判的思考力を養成します。これら一連の取り組みを通して主体的に問題解決を図る態度を身に付けます。これらによって、ディプロマ・ポリシー1-1、2-1、2-2、2-3、3-1に定める能力の修得を目指します。

### 【アドミッション・ポリシー（入学者受け入れ方針）】

情報学研究科情報学専攻は、近畿大学建学の精神に則り、教育目的を実現するため、以下の項目を満たす学生を求めています。

1. 学士のレベルに相当する理工系の素養と英語力を身につけている人。
2. 情報学に関する高度な専門知識を深く学ぶ意欲、研究開発に取り組むことへの強い興味や情熱をもつ人。
3. 自らの課題を解決するための豊かな想像力、深い洞察力と論理的な思考力を獲得したい人。
4. 高い倫理性を持った専門技術者、研究者として学修を通して得られた知識、知見を社会に還元しようとする人。

### 3. 履修系統図(カリキュラムツリー・マップ)

情報学研究科の教育方針に基づき、情報学研究科の教育課程を構築して、各授業科目を設置しています。このような教育課程の体系性や学修の段階、順序等を明示するものとして、履修系統図（カリキュラムツリー、カリキュラムマップ）があります。履修系統図を参照することで、各授業科目の位置づけや授業科目同士の関連性を理解して、体系的な履修計画を立てることができます。

情報学研究科では、各コースでの履修系統図を以下に掲載しているので、履修登録時には、目指すコースの履修系統図を参照し、各授業科目の位置づけを理解したうえで履修計画を立ててください。

<https://www.kindai.ac.jp/informatics/about/graduate/curriculum/>

## II. 学修に関する学生生活

### 1. 学生生活における連絡・情報

- (1) 大学から学生への通知は UNIVERSAL PASSPORT(学生向け Web サービス)や Slack で行います。特に授業期間中は毎日最低一度これらを確認するように心がけてください。連絡を見ないことで思わぬ不利を招くことがありますので、注意してください。
- (2) 手続きや情報の詳細は、学生生活ガイドブックや大学ホームページにも記載されています。

### 2. 1 年間の流れ

1 年間の学修の流れは次の通りです。授業回数の都合上、異なる曜日の授業が行われる場合があります。詳細は、年度ごとに「学年暦」でお知らせします。また、特別な事情によって変更が生じた場合は、UNIVERSAL PASSPORT または Slack でお知らせします。

4 月上旬	学年始め履修指導、前期授業開始 履修登録・登録内容確認・修正期間
7 月下旬～8 月上旬	前期定期試験、前期授業終了
8 月上旬～9 月中旬	夏期休暇
9 月中旬	後期授業開始
11 月上旬	大学祭
11 月 5 日	大学創立記念日
12 月下旬～1 月上旬	冬期休暇
1 月下旬～2 月上旬	後期定期試験、後期授業終了
3 月下旬	修了式、学年終了

### 3. 学期および授業時間

- (1) セメスター制を採用し、2 年間 4 セメスターにわたる一貫教育を行います。各学年を前期と後期の 2 学期に分け、それぞれ 1 学期をセメスターといいます。原則、授業科目は 1 セメスターでその内容を終えるようになっています。また、各セメスターにおいて原則 15 週ずつ授業を行います。
- (2) 通常の授業は第 1 時限から第 5 時限までの範囲で開講されます。各時限の時間帯は次の通りです。

第 1 時限	第 2 時限	第 3 時限	第 4 時限	第 5 時限	第 6 時限
9 : 00 ~ 10 : 30	10 : 45 ~ 12 : 15	13 : 15 ~ 14 : 45	15 : 00 ~ 16 : 30	16 : 45 ~ 18 : 15	18 : 25 ~ 19 : 55

#### 4. 休講と補講

やむを得ず休講となる場合には、原則として後日補講を行います。その日程等は UNIVERSAL PASSPORT でお知らせします。

#### 5. 気象警報及び台風・地震等による交通機関の運行停止に伴う授業の取り扱い

暴風警報等が発表された場合及び台風や地震等により交通機関が運行停止となった場合、学内規程「気象警報及び台風・地震等による交通機関の運行停止に伴う授業の取扱いについて」に基づき授業が短縮または休講となることがあります。大学ホームページまたは UNIVERSAL PASSPORT にてお知らせしますので、その指示に従ってください。居住されている地域の被災により避難指示が発表された場合や通学することが困難な場合は、身の安全を最優先に考え、適切な行動をとってください。また、上記以外に特別な事態が生じた場合にも授業の短縮や休講となる場合があります。

#### 6. 学修上の相談

- (1) 授業の担当教員とは別に、研究指導教員など多くの教員から、研究・履修やその他の学修上のアドバイスを受けることができます。遠慮なく相談してください。
- (2) 学生部では、学生生活のさまざまな悩みに関する相談窓口を設けています。また、奨学金について問い合わせることも可能です。気軽に訪ねてください。

### Ⅲ. 研究指導スケジュール

#### 1. 研究指導スケジュール

学生が入学してから修了するまでの指導は、以下のスケジュールで行います。下記の表における時期は目安であり、研究遂行上の事情等によって変更することもあります。

時期		実施内容
出願時		希望専修科目（指導教員）の決定
1 年次	4 月～8 月	①研究計画、研究方法の策定及び予備検討の指導
	8 月	②研究計画書の提出
	9 月～3 月	③研究指導
	2 月	④中間発表会
2 年次	4 月～1 月	⑤研究指導・修士論文作成指導
	1 月	⑥修士論文審査及び最終試験受験申請書提出
	2 月	⑦公聴会及び最終試験
	2 月	⑧論文審査及び最終試験合否議決

#### ① 研究計画、研究方法の策定及び予備検討の指導

学生は研究指導科目である「特別研究」を、指導教員を担当者としたうえで履修し、文献収集・精読の後、研究テーマ、研究目的、研究方法等を策定し、研究方法の具体化に関する検討を行います。また、研究を実施するために必要な倫理教育を行います。

#### ② 研究計画書の提出

学生は1年次8月までの検討の結果を研究計画書としてまとめて提出します。指導教員はその内容を確認し、より適切な研究計画となるように指導と助言を行います。

#### ③ 研究指導

1年次後期も指導教員を担当者とする「特別研究」を履修します。そこでは、研究計画書に基づき、研究を実施します。指導教員は研究の実施経過を把握し、適宜指導と助言を行います。進捗状況に応じて適時、国内外の学会等での発表も行います。

#### ④ 中間発表会

研究科全体で、修士課程1年の中間発表会を開催します。学生は、定められた形式でこれまでの研究成果を報告します。指導教員以外にも、研究分野に関連する分野を専門とする教員が参加し、指導教員とは異なる視点から学生への評価や助言を与えます。中間発表は、あらかじめ提示したルーブリックを用いて、客観的かつ詳細な評価を行い、学生が自身の到達度や今後注力すべき点を明確に把握できるようにします。

#### ⑤ 研究指導・修士論文作成指導

2年次の前期・後期も指導教員を担当者とする「特別研究」を履修します。指導教員の指導のもと、中間報告で得られた助言を踏まえ、必要があれば研究計画の見直しを行い、修士論文作成に向かって研究を行っていきます。進捗状況に応じて適時、国内外の学会等での発表も行います。また、研究を実施するために必要な倫理教育を行います。

#### ⑥ 修士論文審査及び最終試験受験申請書提出

本学の「学位規程」に基づき、修士論文審査及び最終試験受験申請書、論文、論文内容の要旨を提出することで、論文審査のプロセスが開始されます。指導教員の推薦に基づき、専攻長が審査委員（主査・副主査）を決定して研究科委員会で承認します。

#### ⑦ 公聴会及び最終試験

研究科担当教員及び所属学生が参加する公聴会において、論文提出者の研究成果を確認する最終試験を実施します。審査委員によって、審査基準に基づく口頭試問又は筆答試問を実施し、最終試験の合否案を作成します。

#### ⑧ 論文審査及び最終試験合否議決

審査委員は、論文審査及び最終試験の判定結果を学位授与の可否についての意見を添えて研究科委員会に報告し、研究科委員会では論文審査及び最終試験の合否を議決します。

## 2. 修士論文提出条件

修士の学位論文を提出する場合には、学会等で最低限2回の論文発表、研究発表を行う必要があります。ただし特に著しい研究成果を上げた場合は特例を認める場合があります。なお、院生サミットでの発表は学会等での発表として含めることができます。

【学位論文審査基準】 <https://www.kindai.ac.jp/graduate/review/>

## IV. 修了要件・科目表

### 1. 修了要件

2年以上在学して、基礎科目6単位以上、専門科目12単位以上、特別研究12単位の合計30単位以上取得し、かつ必要な研究指導を受け、修士論文の審査及び試験に合格すること。ここで、専門科目の中から選択した講義1科目2単位、特別研究12単位を必修科目とする。また、基礎科目の「知能システム概論」「サイバーセキュリティ概論」「実世界コンピューティング概論」から2科目4単位以上を指導教員と相談の上、修得すること。さらに、基礎科目の「社会情報学応用実習1」、「社会情報学応用実習2」、「情報技術英語1」、「情報技術英語2」のうち2科目2単位以上を修得すること。

## 2. 科目表

区分	授業科目	配当年次	単位数		担当教員		
			必修	選択			
基礎科目	知能システム概論	1 前		2	教授 教授 准教授	波部 阿部 篠崎	斉 孝司 隆志
	サイバーセキュリティ概論	1 前		2	教授 准教授 講師	谷口 水谷 福田	義明 后宏 洋治
	実世界コンピューティング概論	1 前		2	教授 准教授 講師	須藤 山元 大谷	秀紹 翔 雅之
	社会情報学応用実習 1	1 前・後		1	教授 准教授	波部 濱砂	斉 幸裕
	社会情報学応用実習 2	1 前・後		1	教授 准教授	波部 濱砂	斉 幸裕
	情報技術英語 1	1 前		1	准教授	中川	浩
	情報技術英語 2	1 後		1	教授	三原	京
専門科目	数理情報工学特論	1 後		2	教授	田川	聖治
	ネットワーク特論	1 前		2	教授	井口	信和
	環境情報特論	1 後		2	教授	佐野	到
	計算知能特論	1 前		2	教授	半田	久志
	システムデザイン論特論	1 前		2	教授	須藤	秀紹
	情報セキュリティ特論	1 前		2	教授	毛利	公美
	バーチャルインタラクション特論	1 前		2	教授	中西	英之
	コンピュータビジョン特論	1 後		2	教授	波部	斉
	知的通信網特論	1 後		2	教授	谷口	義明
	知的メディア情報処理特論	1 前		2	教授	阿部	孝司
	ビジネスモデリング特論	1 前		2	准教授	森山	真光
	並行計算理論特論	1 後		2	准教授	加藤	暢
	自然言語処理特論	1 前		2	准教授	溝渕	昭二
	知的教育情報システム特論	1 前		2	准教授	越智	洋司
	ソフトウェア工学特論	1 後		2	准教授	角田	雅照
	ディペンダブルコンピューティング特論	1 後		2	准教授	守屋	宣
	知能情報処理特論	1 前		2	准教授	濱砂	幸裕
	脳計算科学特論	1 後		2	准教授	篠崎	隆志
	知能行動情報学特論	1 前		2	准教授	杉山	治
	大規模情報処理システム特論	1 後		2	准教授	水谷	后宏
	学習工学特論	1 後		2	准教授	山元	翔
	サイバーセキュリティ特論	1 後		2	講師	福田	洋治
	フィールド知能特論	1 後		2	講師	大谷	雅之
バイオインフォマティクス	1 後		2	教授	半田	久志	
臨床腫瘍学 1	1 前		2	教授	半田	久志	
臨床腫瘍学 2	1 後		2	教授	半田	久志	
課外研究 1	1 前・後		2	教授 教授	波部 谷口	斉 義明	
課外研究 2	1 前・後		2	教授 教授	波部 谷口	斉 義明	
特別研究	特別研究	1~2 通	12			専修科目 指導担当教員	

## V. 学籍と事務手続き

大学ではさまざまな事務手続きを自分で行います。提出期限は厳守する必要があり、期限を過ぎると原則として申請は無効になります。手続きに関する各種案内を参照してください。また、不明な点はE館1階の情報学部学生センターにお問い合わせください。

### 1. 学籍番号

入学手続きを完了すると学籍番号が決められます(学生証に記載される番号)。この番号(10桁)は学生として登録されたことを表し、レポート課題、答案用紙または各種証明書交付願などには、学部・学科・学年・氏名とともに、この学籍番号を記入しなければなりません。

### 2. 各種変更の届出

本人・学費負担者の住所・電話番号などが変更になった場合は、速やかに UNIVERSAL PASSPORT から住所等変更申請を行ってください。学費負担者の変更、本人・学費負担者の氏名が変更になった場合は、速やかに UNIVERSAL PASSPORT から学費負担者変更申請を行ってください。

### 3. 退学・再入学

- (1) 病気、その他やむを得ない事由で退学する場合は、指導教員と退学面談を行った上で、学生証を添付して「退学届」を提出しなければなりません。
- (2) 退学した者が再入学を希望するときは、退学となった学年度、翌学年度及び翌々学年度の3月1日から3月7日までの間に「再入学願」を提出し、その許可を受けなければなりません。

### 4. 休学・復学

- (1) 病気やその他やむを得ない事由で3ヵ月以上就学できないときは、学部教員と休学面談を行った上で、その事実を証明する書類を添えて「休学願」を提出し、その許可を受けなければなりません。休学者が休学期間を終えたときは、「復学届」を提出し、その許可を受けなければなりません。なお、休学中は在学期間とみなされません。

### 5. 除籍・復籍・処分

- (1) 学費を期限までに納入しない場合は、学則の定めるところにより除籍され、学生の身分を失うことになります。
- (2) 除籍された者が所定の期間内に手続きを完了すれば、審査の上復籍が許可されます。ただし、所定の期間を経過した場合は許可されません。
- (3) 学則に定める不適切な行為があった場合は、処分されます。3ヵ月以上停学処分を受けた場合は、その期間に応じて修了が延期されます。

## 6. 定期健康診断

4月に定期健康診断を行いますので、必ず受けてください。定期健康診断を受けない場合は健康診断証明書の発行ができません。疾病、その他やむを得ない事由により、定期健康診断を受けなかった場合は、速やかにメディカルサポートセンター(11月ホール3階)に申し出て、指示を受けてください。

## 7. 欠席届

授業・実習のみならず、学部・研究科が実施する行事にも必ず出席してください。やむを得ず欠席する場合には、所定の欠席届を提出してください。

### (1) 授業の欠席

#### ①適用範囲、証明書類および日数

欠席事由		必要証明書类等	認可日数
a	傷病等による1週間以上の入院	医師診断書	当該日のみ
b	学校保健安全法に定められた学校感染症	医師診断書、学校感染症治癒証明書あるいはメディカルサポートセンターへの連絡	治癒するまで
c	申請者の父母、兄弟姉妹が死亡	会葬御礼葉書または死亡通知書の関係書面	1週間
d	申請者のc以外の3親等以内親族が死亡		2日

#### ②申請要領

申請方法の詳細については、UNIVERSAL PASSPORT または Slack で案内します。

#### ③注意事項

ア) 交通機関のトラブル等により遅延証明を取得した場合は、授業担当教員に直接申し出てください。

イ) 「欠席届」は欠席が(1)項にある事由によるものであることを証明するものです。欠席届によって授業の欠席が公的に認められるわけではありませんので注意してください。欠席届が提出された場合の成績評価の扱いについては科目担当教員より指示があります。

ウ) 学校感染症に罹患した場合には、治癒するまでの期間は学校保健安全法によって出席停止となります。学生センターへ速やかに連絡し、無理に出席しないようにしてください。

### (2) 試験の欠席

#### ①適用範囲と証明書類

「(1) 授業の欠席」①の欠席事由、就職試験、大学院入学試験のいずれかにより、定期試験ならびに科目担当教員が予め指定する主要な確認テストを欠席した場合を追試験の対象とします。

②申請要領

申請方法の詳細については、UNIVERSAL PASSPORT または Slack で案内します。

## VI. 科目の履修と単位の修得

### 1. 単位

単位とは、各授業科目あたりの量的（時間数および期間）基準です。1 単位は、教員が授業を行う時間および学生が事前・事後に準備学習・復習を行う時間の合計で、標準 45 時間の学修を要する内容をもって構成されています。授業科目の単位数は、次のように定めています。

- ①講義による科目は、週 1 時限の授業を 1 セメスターで 2 単位
- ②外国語科目、実習、演習科目は、週 1 時限の授業を 1 セメスターで 1 単位

### 2. 科目の履修

#### (1) 単位修得の流れ

大学ではカリキュラムと自分の単位の修得状況に応じて自分で時間割を作成します。作成した時間割を定められた期間内に登録することで授業を受講できます。授業内容を理解し、評価の結果、合格することで単位を修得できます。

#### (2) 標準履修と再履修

在学学年に配当された授業科目を履修することを標準履修といいます。下級学年の授業科目も履修が可能です。履修登録をして不合格となった科目を次年度以降において再度履修することもできます（再履修）。しかし、上級学年で下級学年の開講科目を履修すると、他の科目と重複する場合や、カリキュラム変更によって受講できない場合もありますので、標準履修して合格するように心がけてください。

#### (3) 重複履修の禁止

同一時間に 2 科目以上の授業科目を重複して履修することはできません。同じ時間に 2 科目の授業を受けることは不可能であり、重複履修はいかなる理由があっても無効です。よく注意して、履修登録をしてください。

#### (4) 履修に関する注意

- ①履修登録期間等は、別途通知しますので、履修登録期間に履修登録を行ってください。期間中は何度でも登録を変更することができます。前期の単位修得状況に応じて、後期に後期科目の履修登録修正を行うことができます。
- ②履修登録をしていない授業科目については、原則として受講や受験をしたとしても単位の認定を受けることはできません。
- ③履修登録者の少ない授業科目は、その年度において不開講となる場合があります。この場合は期日を定め、再登録について指導を行います。
- ④履修計画や履修登録は、すべて自分の責任において行い、正当な理由なく履修を放棄（長期欠席、受験放棄など）することのないようにしなければなりません。

### 3. 授業形態について

本学では様々な形態で授業を行います。代表的な授業形態は以下の通りです。

#### (1) 対面授業

教員が学生に対し、同じ空間（教室等）、同じ時間で授業を実施する形態です。

#### (2) メディア授業

同時オンライン授業：会議アプリ等を活用し、Web を介して自宅や教室以外で時間割に即して授業を受ける形態です。

オンデマンド授業：事前に教員が録画した授業を、時間割にとらわれず授業担当教員が定めた期間に視聴する形態です。

また、(1)と(2)を組み合わせた授業もあり、組み合わせにより対面授業またはメディア授業のどちらかに分類されます。シラバスの「授業形態」に記載していますので、授業内容とともにこの情報も参考にして履修登録を行ってください。

#### ※ (1) と (2) を組み合わせた場合の対面授業の定義

授業回数の半数以上が「対面授業」として設定されている場合は、対面授業と定義します。

### 4. レポート

レポートとは、成績評価にも関係する提出課題です。

(1) 剽窃・盗用行為は倫理に反する不正行為です。これらの行為は、学則および情報学研究所内規により厳正に処分されます。

①剽窃とは他人の著作から全部または部分的に文章、図表、語句、話の筋、思想などを盗み、自作の中に自分のものとして用いることです。

②他人のレポートやテキストを写す行為、ネットの情報を貼り付ける（コピー）行為はこれに該当します。

③引用と剽窃・盗用は異なります。引用のルールについては、近畿大学中央図書館ホームページ内「学修サポート」の「レポートの書き方」や「引用について」、「ダメなコピー・パクリ≡「剽窃（ひょうせつ）」について」を参照してください。

(2) レポートの提出期限は厳守してください。期限を過ぎると、原則として提出は不受理や無効になります。レポートに書かれた文章は、それを書いた人の大事な自己表現です。自分の文章に誇りを持ち、自分自身の個性を十分に発揮してください。

### 5. 授業への出席

(1) 全ての授業科目は、毎回出席することを前提に授業が進められます。むやみに欠席してしまうと、授業内容が理解できないことになるので注意してください。

(2) 授業への出席は、担当教員の指示が特に無ければ、教室に備え付けられているカードリーダーで登録してください。

- (3) 出席が著しく不足する場合(1/3以上の欠席)は、原則として不合格になります。授業科目によっては別の基準がありますので、別途指示があればそれに従ってください。
- (4) 対面授業の場合、授業開始時刻には指定された教室で着席しておくようにしてください。カードリーダーでは開始時刻から数分遅れても遅刻と記録されないことがあります。遅刻しても構わないという意味ではありません。遅刻するとみなさん自身の不利益になるばかりか、静粛に授業に出席している他の学生の迷惑にもなります。

## 6. 成績

- (1) 授業科目の単位修得の合否は、次のように判定されます。100点満点で、60点以上が合格となり、59点以下は不合格となります。
- (2) 成績評価は、次のように扱われます。
- 優(100点～80点)、良(79点～70点)、可(69点～60点)、不可(59点以下)
- なお、授業科目によっては単に「認定」または「不可」という表示で評価する場合があります。また、成績証明書については、優・良・可・合を用いて表記されます。
- (3) 成績評価のための条件がそろわない場合には、その科目は「不受」となります。
- (4) 単位を修得した科目およびその成績は、UNIVERSAL PASSPORTで開示します。

## Ⅶ. 大学院「教育プログラム」における他研究科等の履修および単位認定

大学院学則第12条に基づき教育研究上有益と認めるときは、当該研究科の指導教員の許可を得て、他研究科の授業科目を履修し、単位取得することができます。情報学研究科での単位認定の上限は原則8単位となりますので、指導教員へ相談してください。

## Ⅷ. 主な施設紹介

### 1. 中央図書館 (<https://www.clib.kindai.ac.jp/>)

学修・研究にあたっては、中央図書館を大いに活用してください。中央図書館は、中央館(10号館)・ビブリオシアター(5号館)と19号館図書室・A館図書室・B館図書室の3つの分室からなります。

### 2. アカデミックシアター (<https://act.kindai.ac.jp/>)

文理の垣根を越えて社会の諸問題を近畿大学として解決に導くための学術拠点です。建学の精神「実学教育」と「人格の陶冶」を礎に、学問的な知識や技能をアクティベートする社会実践と、文理融合・領域横断的なりべらルアーツ教育を相補的に展開する”知の劇場”です。多様な学問分野を横断する独自の図書分類「近大INDEX」、新たな社会的価値を創造する実学プロジェクト「ACT EX (イーエックス)」、地元企業と協同したモノづくりの実験工房である「THE GARAGE」という三つの機能を通して、総合大学としての力を結集し、単一の専門分野では対応できない複合性、多面性をもった社会課題に向き合います。

### 3. KINCUBA Basecamp (<https://www.kindai.ac.jp/kincuba/>)

「起業」というチャレンジを山に例えたとき、目標到達を目指す拠点となる場所、それがKINCUBA Basecamp。このインキュベーション施設は、近畿大学東大阪キャンパスを象徴する西門の目の前に位置し、24時間利用可能、登記利用もでき、環境面からも起業を支援しています。同じ夢と志をもった仲間といつでも集うことができる共創空間で、近畿大学発ベンチャーの創出を後押しします。

### 4. 英語村 E3[e-cube] (<https://www.kindai.ac.jp/e-cube/>)

「遊びながら英語を楽しく学ぶ」をコンセプトに、コンセプトを徹底して実践する”英語の遊び場”です。「遊びを取り入れた勉強」ではなく、徹頭徹尾、「遊び」を貫きます(ただし、英語で)。日本の大学で初めてとなるユニークな試みは、大学英語教育の現状に一石を投じつつ、学生たちと英語との距離をぐんぐん縮めています。

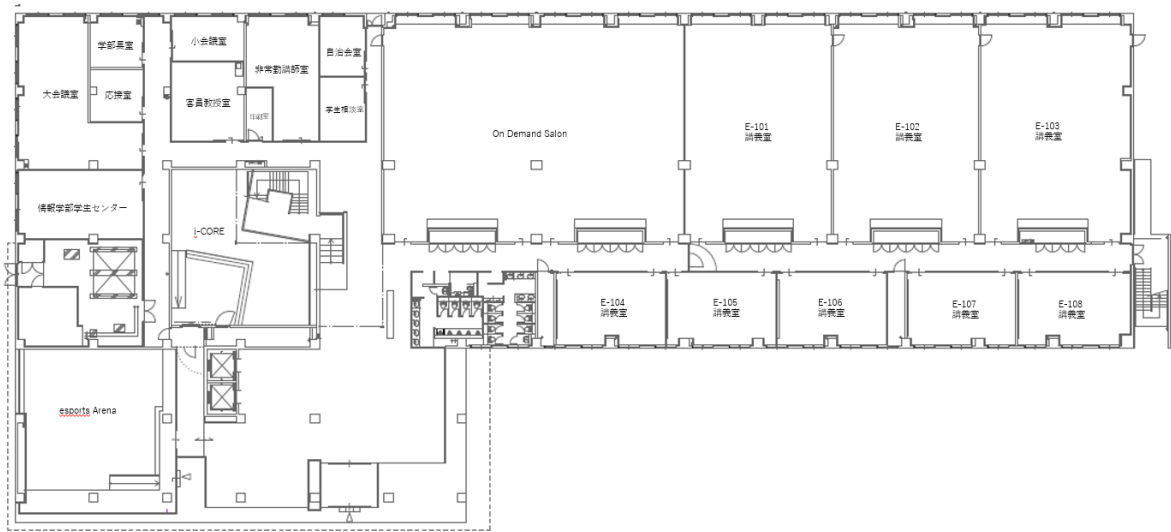
## 参考

キャンパスマップ

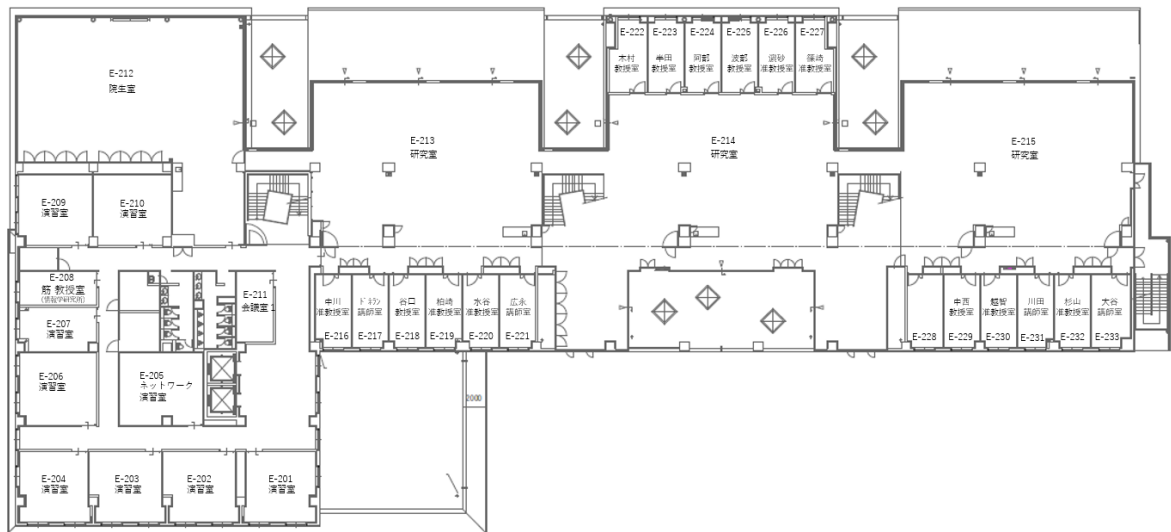
<https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/campus-guide/higashi-osaka/>

# E 館

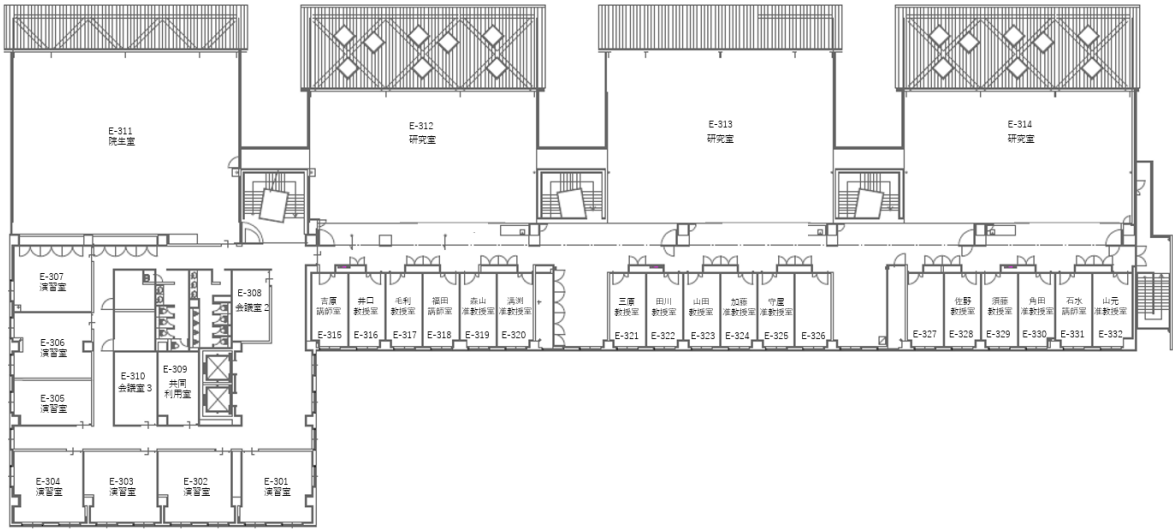
## 1 階



## 2 階



3階



4階

